



A-TiC

広報誌エーティック・プレス

PRESS

FORWARD TO THE FUTURE 2023



株式会社 エーティック
SINCE 1973

新年明けましておめでとうございます。

コロナ禍も激増した時期から比べると減少傾向を見せていますが、依然として高止まりの傾向が続いています。皆様もくれぐれもご自愛くださいますようにご祈念申し上げます。

弊社は1月30日に設立50周年を迎えます。発注者の皆様と社員一人一人の研鑽により、1歩ずつではありましたが、企業として成長を続け、50年という大きな節目を迎えることができました。心から感謝申し上げます。

半世紀のあゆみは決して平坦なものではありませんでした。しかし、厳しい時代を経験したからこそ、建設コンサルタントとして、成果品を作ることが目的ではなく、常にお客様の意図を汲み取り、お客様とともに解決方法を考えるという「プロセス」を重視し、より良い解決方法をご提示するという「コーディネーター」の役割を果たすことの大切さを再認識し、実践してきました。

働き方改革の波が押し寄せる中、「プロセス」を重視しながら、「集中と選択」をしっかりと遂行し、お客様にとって最善の提案を行うためには、「人材」の確保と育成が必須事項です。創立50周年を機に昨年9月に新社屋が竣工しました。新社屋の最も大きな目的は、社員の幸せを追求する空間とすることです。新しい空間で社員が自主性と創造性を発揮し、より一層お客様の満足度を上げる企業となるよう決意を新たにしています。



代表取締役社長 舟田 幸太郎

時代の変化に対応し「進化」を続けて

1973年(昭和48年)1月、当社は「北日本計測コンサルタント(株)」として発足しました。当時は第1次オイルショックが勃発し、戦後の高度経済成長が終焉を迎えた時期でもありました。日本が大きく変わろうとする激動の時期の船出でしたが、創業メンバーはエンジニアとして熱い志を持って、技術の研鑽とお互いの切磋琢磨を重ね、時代の波を乗り切ってきました。半世紀の歩みは、決して平坦なものではありませんでした。しかし逆境を糧として、顧客第一を掲げ「進化」を続ける当社の姿勢は、半世紀を経た今も変わりません。建設総合コンサルタントとしての役割と社会的意義を常に忘れず、100年を目指し、時代の荒波を乗り切っていきます。

ーエーティック半世紀の歩みー

- 1973年(昭和48年) 道路調査、設計、測量を主業種として北区北24条西15丁目に北日本計測コンサルタント株式会社設立。代表取締役任 資本金100万円、測量業登録、環境計量証明事業登録
- 1979年(昭和54年) 測量設計部、計測エンジニアリング部設置
青函トンネル計測業務に参加
- 1982年(昭和57年) 本社を中央区北1条西21丁目に移す(自社屋、用地取得)
水文調査部設置
- 1985年(昭和60年) 地質調査業登録、地質部設置
- 1986年(昭和61年) 本社ビル完成本社を西区二十四軒1条5丁目に移す
建設コンサルタント登録、技術開発部設置
- 1987年(昭和62年) 資本金2,000万円に増資
建築士事務所登録、企画室設置
- 1993年(平成5年) 創立20周年、東北事務所開設
- 1994年(平成6年) 「株式会社エーティック」に社名変更
- 1996年(平成8年) 函館営業所開設
- 1997年(平成9年) 東京支店開設
売上高15億円超える
- 2000年(平成12年) 旭川営業所、釧路営業所開設
人材開発部設置、一般労働者派遣業登録
- 2001年(平成13年) 新規事業開発部、構造物診断部設置、東京支店拡充
中国・湖南省長沙市に駐在事務所開設
- 2004年(平成16年) 土木研究所と光ファイバ共同研究
- 2007年(平成19年) 北海道開発局優良工事等表彰を初受章(局長表彰)
- 2008年(平成20年) 資本金5,200万円に増資
大日本コンサルタント株式会社と業務提携
- 2013年(平成25年) 創立40周年
- 2014年(平成26年) 代表取締役会長に舟田清志就任
代表取締役社長に舟田幸太郎就任
- 2015年(平成27年) 札幌開発建設部から「道路許認可審査・適正化指導業務」を初受注
- 2016年(平成28年) 室蘭工業大学の永野宏治教授と「老朽化した橋梁における車両通行時の振動波形の解析」を共同研究(2021年3月まで)
- 2018年(平成30年) 創立45周年記念に札幌市の円山公園に時計塔・掲示板・案内板を寄贈
函館支店開設
- 2019年(令和元年) 苫小牧工業高等専門学校への出前授業を開始
- 2020年(令和2年) 「トンネルにおける初期応力の測定装置の実用化」をテーマに北海道大学・フジタと共同研(2023年3月まで)
- 2021年(令和3年) 現在の組織体制(設計部、調査部、計測事業室、計測コンサルティング室)となる
- 2022年(令和4年) 新社屋竣工
全国地質調査業協会連合会(全地連)「令和4年度技術者表彰」受賞



Friendly rivalry & Various collaborative relationships

融合と創造の場が誕生

ー新社屋が完成、社内外コラボレーションの活性化をー



2022年9月、エーティックの新社屋が完成しました。創立50周年を機に、旧社屋を解体し、跡地に社屋を建設しました。

新社屋は、社内外コラボレーションの活性化と、知恵の融合による付加価値の創造を促すこと、そして、人が育つ拠点であり続けることをコンセプトにデザインしました。

新たな空間は、半世紀の歩みを経て、未来に向かうエーティックの拠点として、人と人が出会い、協働・協創する場となります。



10

技術者列伝

土谷 実

若くして生涯最高の成果を残す



MINORU TSUCHIYA

稚内開発建設部稚内港湾事務所提供

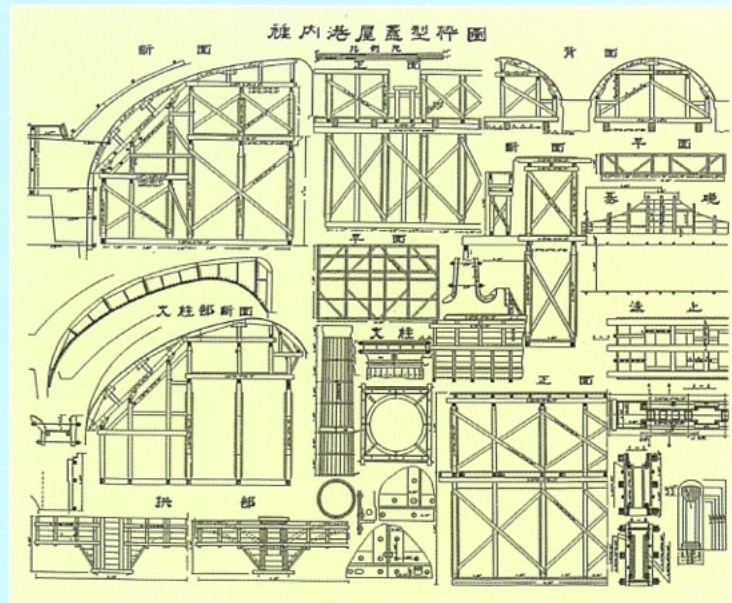
北海道北端の港には北防波堤ドームという世界唯一の変った形状の防波施設があります。極寒の地、稚内の強烈な風波を防ぐために作られたこの施設は、昭和 55 年の改修を経て現在は稚内市のシンボルとしてその威容を残しています。この施設を設計したのは若干 26 歳、大卒赴任 3 年目の若手技師でした。

○技術者としての出発点

土谷実^{ちく}は明治37年(1904年)に生まれ、昭和3年(1928年)に北海道帝国大学土木工学科の第一期生として卒業の後、当時、北海道の港湾建設を指導・統括していた伊藤長右衛門(北海道庁港湾課長)のすすめで同年、稚内築港事務所に赴任します。土谷は赴任した稚内築港事務所で先輩技術者である平尾俊雄から直接指導を受けます。平尾は東京帝国大学を卒業後、廣井勇、伊藤長右衛門から最新築港技術受け継いだ技術者であり、当時は網走と稚内の築港事務所長を兼務していました。

○先輩の無茶ぶり

北防波堤を屋根付き構造とする基本構想は平尾が考えデザインしたものです。それを設計として具体化したのが土谷でした。大学時代にアーチコンクリート橋設計を学んだことも設計を任される理由でした。しかしスケッチ1枚を渡しただけで強度計算から図面作成まで全設計工程を2カ月で完了せよという無茶な指示であり、3年目の技術者への指示としては過酷すぎるものだったのです。防波堤に天蓋を設けるといふ平尾の構想を描いたスケッチに基づき古代ローマ建築を参考にした高さ 13.6m、全長 427m、柱の数 70 本の半アーチ型の防波堤設計を行います。平尾は土谷のユニークな造形には何ら注文をつけませんでした。その後は自らが設計に関与したことは決して口にせず、実現化のために内務省を奔走します。土谷にとって平尾は非常に怖い上司であり、それ以上に尊敬し頼れる先輩技術者でもあったのです

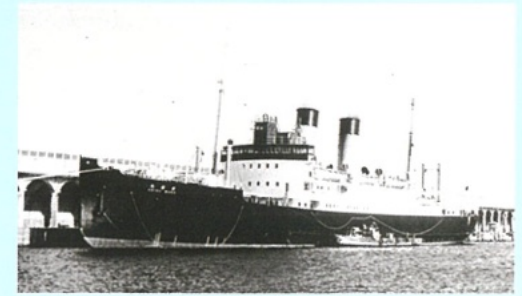


北防波堤ドーム型枠図(稚内開発建設部稚内港湾事務所提供)

○北防波堤ドームはなぜ作られたのか

明治38年(1905年)の日露戦争後に南樺太が日本に帰属し、稚内と樺太の大泊を結ぶ航路(稚泊航路)は人員だけでなく資源・物資輸送の重要航路でした。当時の稚内港は乗り継ぎが悪く、現南稚内駅までしか鉄道がない上、港まで

の1.6kmの距離を強風に晒されながら歩かねばなりません。高波により乗船客が海へ転落する事故も発生しており、防潮施設の整備は急務だったのです。昭和3年(1928年)に現稚内駅まで鉄道が延伸され、昭和11年(1936年)に北防波堤ドームが完成すると港に隣接する稚内棧橋駅まで路線が延長されます。棧橋駅は防波堤ドームと一体構造であり、乗船客は降車後に雨や波に晒されることなく、安全に連絡船への乗継ができるようになったのです。この後、稚泊航路は全盛期を迎えるのです。

稚泊連絡船と北防波堤ドーム
(稚内市立図書館提供)

○北防波堤ドームのその後

第二次世界大戦により日本が南樺太の領有権を失ったため、北防波堤ドームはその役割を終えます。その後石炭の備蓄場として使用されますが、塩害等で老朽化が著しく、取り壊しの予定となっていました。

北防波堤ドームは昭和39年(1964年)毎日新聞で紹介されると、これを契機として観光ガイドブックや雑誌にも度々登場するようになります。すでに稚内市のシンボルとして定着し、市民らの保存運動などの高まりも後押しとなって、ついに原型に忠実な復元工事の実施が決定されたのです。復元工事は昭和55年(1980年)に完成しました。現在では市の観光資源として、また市民の憩いの場として新たな役割を担っているのです。

ドーム内に設置された稚内棧橋駅
(稚内開発建設部稚内港湾事務所提供)復元当時の北防波堤ドームと鉄道施設
(稚内市港湾空港課提供)

○土谷実の後半生

北防波堤ドームの完成後土谷の足跡は多くありませんが、根室港や花咲港の建設に関わったとの記録があります。上司平尾と部下土谷の関係は長く続いたようで、平尾が責任者として携わった中国海南島の八所港建設にも赴いており、その後風土病にかかり帰国しています。

土谷は晩年、北防波堤ドーム設計者としての評価について、「自分ばかりが評価されるのは平尾さんに申し訳ない」との手記を残しています。土谷と平尾の上司部下の関係は非常に良好なものだったようです。奇抜なアイデアを構想する平尾と、それを上回る成果を実現して見せた土谷、現在、「北防波堤ドーム」は土谷と平尾の合作として高く評価されているのです。



現在の北防波堤ドーム



井形 淳 設計部 技師長 工学博士/技術士(建設部門)

想像を超える過酷な要求に最高の結果で答え、強い信頼関係を培った技術者達の話です。昨今は難しい上下関係を良く耳にしますが、労働環境だけでは語れない一つの信頼関係が、他に類を見ない素晴らしい土木遺産を誕生させたのです。

1967年札幌市生まれ。1993年室蘭工業大学大学院建設システム工学修了、1996年室蘭工業大学大学院建設工学修了。北海道開発局開発土木研究所を経て、建設コンサルタント会社に勤務。2015年(株) エーティック入社

北海道開発局長表彰と開発建設部部長表彰、 建設管理部の優秀現場代理人表彰が行われました！

令和4年度の開発局長表彰には、札幌開発建設部発注の「一般国道453号恵庭市外金山覆道補修設計外一連業務」(管理技術者:熊木功治)が選定され、開発建設部部長表彰では、小樽開発建設部発注の「一般国道229号神恵内村西の河原トンネル補修設計外一連業務」(同:山本岳)と、網走開発建設部発注の「一般国道238号佐呂間町富武法面対策設計外一連業務」(同:櫻井信作)が栄誉に輝きました。また、稚内建設管理部の優秀現場代理人表彰では、北見幌別川総合流域防災振動調査を担当した池田範和が晴れの受賞となりました。社員全員が今回の受賞を励みとして、今後もさらなる技術の研鑽と、優秀な業務成果の達成に全力を挙げていきます

【北海道開発局長表彰】



【小樽開発建設部部長表彰】



【網走開発建設部部長表彰】



【稚内建設管理部優秀現場代理人表彰】



最優秀賞に設計部の吉村珠美さん～第30回社内技術研究発表会を開催

2022年度の社内技術発表会が9月28日に札幌市生涯学習総合センター「ちえりあ」で開催されました。30回目を迎えた今回は、入社3年目までの調査部と設計部から若手技術者6人が、各専門分野の業務で得た知見や見解を論文にまとめ発表しました。

今回は初めて、発表会に参加した社員の評価も加えた審査の結果、最優秀賞に設計部の吉村珠美さん、優秀賞に調査部の佐藤宥紳さんと設計部の長谷優之介さんが受賞しました。発表者は、調査部から大島寛豊さん(北海道新幹線札幌トンネル工事(銭函)に伴う掘削ずり置き場の選定)と菊地隆太さん(東山小学校改築関連工事に伴う事業損失防止調査について)、佐藤宥紳さん(創成川ダイレクトアクセス道路建設における地質調査について)の3人が発表しました。

設計部からは長谷優之介さん(京極地熱業務における事業用林道のルート選定について)と南勇輝さん(橋梁施設における補修の必要性に対する検証)、吉村珠美さん(利尻富士町の道路排水対策検討について)の3人が発表。各自の持ち時間20分を使って、丁寧なプレゼンテーションと質疑応答を行いました。社員評価と幹部社員による審査委員の審査の結果、最優秀賞1点と優秀賞2点を決定しました。

最優秀賞を受賞した吉村さんは「皆さんのフォローをいただけてまとめることができました。分かりやすく伝えることを考えながら発表しました。島の暮らしに大きな影響のある事業の調査をすることで住民のニーズに応えることのやりがいを感じました」と喜びを語っていました。



最優秀賞を受賞した吉村さん(前列中央)と優秀賞の長谷さん(同左)、佐藤さん(同右)、後列は舟田社長(左)と岡田専務(右)

道内トンネル文献あれこれ

令和4年7月～令和4年11月において、専門雑誌等に発表された、北海道内のトンネルに関する論文・報文等のリストを紹介します。トンネル関係者の方々へ最新情報を提供いたします。なお、詳細を知りたい方は弊社までお問い合わせ下さい。

国道・道道他

- 1 長谷川元気：一般国道227号 厚沢部町外 新中山トンネル工事，北海道土木技術会トンネル研究委員会会報，No.71，pp1-7，2022.

新幹線・鉄道

- 2 辻博幸：北海道新幹線、国縫トンネル他工事，北海道土木技術会トンネル研究委員会会報，No.71，pp8-12，2022.
- 3 石川大輔，小原寛士，浅野彰夫：表面波探査を活用した一次インパクト合理化の取り組みー北海道新幹線ニッ森トンネル尾根内区一，トンネルと地下，Vol.53，No.8，pp7-16，2022
- 4 村岡貢：特別豪雪地帯での全線小土被り・未固結地山のトンネル施工ー北海道新幹線、ニセコトンネル他一，第90回(山岳)施工体験発表会，2022.
- 5 梅主大和，塩梅恭平，山口真基，小塩崇之：全区間小土かぶり火山灰質土地山での補助工法適用を初期天端沈下量で管理ー北海道新幹線 ニセコトンネル，トンネルと地下，Vol.53，No.11，pp7-12，2022.

その他

- 6 中野大志，河村成範，生形剛：800mm超の巨礫を含む砂礫地盤を克服した中口径シールドの施工ー望月寒川広域河川 放水路トンネル，トンネルと地下，Vol.53，No.8，pp65-72，2022.

A-TiC à la cart



■滝野公園に彩りを一社員らが植栽活動

エーティックは2022年6月25日、滝野すずらん丘陵公園で植栽活動を行いました。当社の経営理念の一つとして掲げる「国土づくりに貢献する」を实践する取組として企画したものです。

コロナ禍の影響を受け、20年、21年度と中止していましたが3年ぶりの活動となりました。

植栽には社員とその家族ら25人が参加しました。サルビアとペチュニア計90株を、同公園の職員から植え方を教えてもらった後に、東口ゲート前に移動し、プランターに植え込みました。初夏の日差しの中、親子や夫婦で色合いを話し合いながら植栽を楽しみました。来年度以降についても、感染症対策を行った上で活動を継続する予定です。

3年ぶりとなった植栽活動



■安全風土の構築を一下期安全大会を開催

2022年度下期安全大会を9月28日、札幌市生涯学習総合センターちえりあで開催しました。大会には100人が参加。舟田幸太郎社長は「平時には最高の準備を行い、何かあった時には、冷静に対応することが危機管理の鉄則です」と呼び掛けました。

このあと、日本自動車連盟札幌支部事業課交通環境係兼事業係の小泉雅之さんが「危険予知、災害時の対応」をテーマに講演。続いて霜山睦安全衛生委員長が安全活動報告を行いました。大会の最後には、調査部の菊地隆太が「無事故・無災害の実現と送り出し教育など、安全風土の構築を進めていきます」と安全宣言しました。

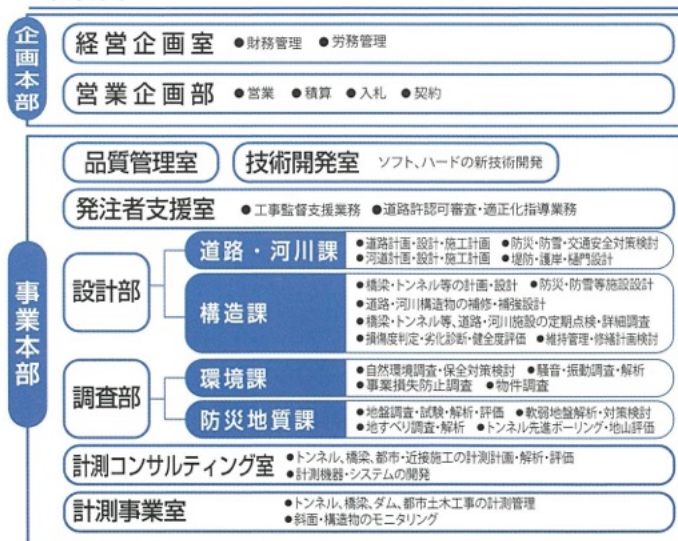
安全意識の高揚を訴える舟田社長



株式会社 エーティック 会社概要

- 商号 株式会社エーティック
- 代表者 代表取締役社長 舟田 幸太郎
- 所在地 〈本社〉 札幌市西区二十四軒1条5丁目6番1号
- 創業 昭和48年1月31日
- 資本金 48,000千円
- 従業員 96名
- 事業所 札幌本社 東京支店 函館支店 道央営業所 旭川営業所
- 表彰 令和4年 北海道開発局 局長表彰 受賞
北海道開発局 小樽開発建設部 優良工事等表彰 受賞
北海道開発局 網走開発建設部 優良工事等表彰 受賞
稚内建設管理部 優秀現場代理人 表彰
- 令和3年 北海道開発局 局長表彰 受賞
北海道開発局 札幌開発建設部 部長表彰 受賞
北海道開発局 留萌開発建設部 部長表彰 受賞
- 令和2年 北海道開発局 帯広開発建設部 部長表彰 受賞
- 令和元年 北海道開発局 札幌開発建設部 優良工事等表彰 受賞
北海道開発局 小樽開発建設部 優良工事等表彰 受賞
札幌市建設局土木部所管工事に係る設計等優秀履行業者表彰受賞
- 平成30年 北海道開発局 室蘭開発建設部 優良工事等表彰 受賞
- 平成29年 北海道開発局 網走開発建設部 優良工事等表彰 受賞
札幌市建設局土木部所管工事に係る設計等優秀履行業者表彰受賞

組織図



編集後記

弊社は今年創立50周年を迎えます。今では創立当時を知っている社員は数名となりましたが、皆現役で業務に従事しています。先人たちの切り拓いた歴史の線上にいまの私達があります。50年を迎えられたことに感謝の念を新たに、未来への一歩を踏み出します。

広報委員会 広報誌部会